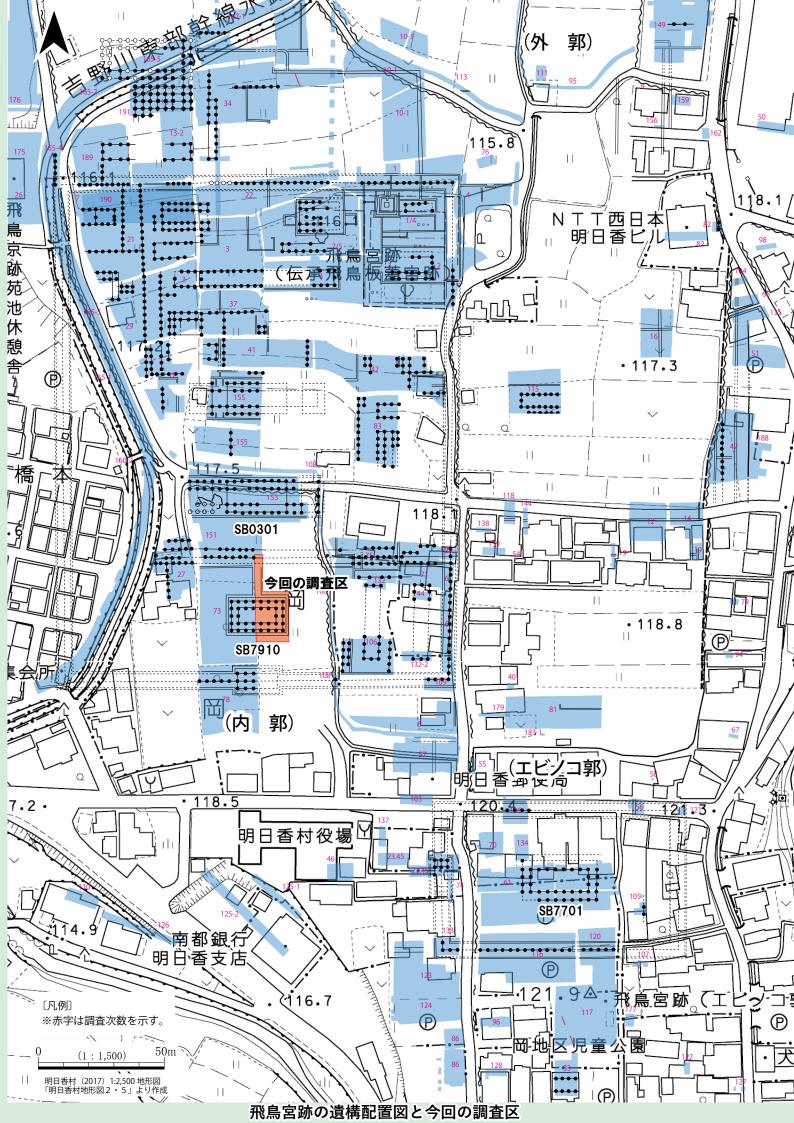
史跡 飛鳥宮跡 (飛鳥京跡第192次調査)

Asuka Palace Site (National Historic Site) 現地説明会資料 2025年11月8日(土)・9日(日)









はじめに

史跡 飛鳥宮跡は、飛鳥時代の宮殿遺跡です。 これまでの調査研究で、I~III期の3時期の宮殿 遺構が重複して存在することが判明しています。 Ⅰ期遺構が舒明天皇の飛鳥岡本宮、Ⅱ期遺構が 皇極天皇の飛鳥板蓋宮、Ⅲ期遺構のうちⅢ-A 期が斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、Ⅲ-B 期が天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮と考えら れています。

今回の調査は、奈良県による飛鳥宮跡・飛鳥京 跡苑池整備活用事業に伴うもので、飛鳥京跡第192 次調査になります。調査区は1979年度調査区(第 73次)の東隣に位置し、飛鳥宮跡Ⅲ期遺構の内郭 南区画にあたります。調査の主要な目的は、第73 次調査で検出した内郭南区画の中心建物(正殿)で ある掘立柱建物 SB7910の構造と規模を確認する ことです。

発掘調査の成果

①掘立柱建物 SB7910 第73次調査の成果から、 桁行(東西) 7間(約20.0m)×梁行(南北) 4間 (約11.2m)の東西方向の建物で、東西南北に廂が 付く正方位の四面 廂 建物になると想定されていま した。今回の調査では、想定通りの位置に柱抜取 穴および柱穴、建物周囲を廻る石敷 SX7916を確 認したことで、建物の構造と規模が確定しました。

柱掘方の平面形は不整形で規模は一辺0.8~1.7 mです。第73次調査の成果と同様に柱は全て抜き 取られたものと考えられます。柱抜取穴から推定 される柱間寸法は、身舎が10尺(約2.94m)、廂が 9尺 (約2.65m) となります。

側柱(建物外側の柱)と入側柱(建物内側の 柱)を斜めに結んだ中心辺りでは、小さな柱穴を 確認することができました。この小さな柱穴は、 確認することができた位置と層位などから解体時 に使用された足場穴の痕跡であった可能性があり ます。

なお、SB7910には階段があった可能性が考えら れていますが、今回の調査では確証を得ることは できませんでした。

②石敷SX7916 掘立柱建物SB7910の周囲を廻る 石敷で直径約30cmの石がもちいられています。

今回の調査において、内側にある SB7910の側柱 の柱通りまで石が設置されていたことがわかりま した。新たに確認された内側の石敷については、 外側のものよりも一段高くなるように石が設置さ れていました(写真1)。このような石敷は、内郭北 区画の南の正殿 SB0301やエビノコ大殿 SB7701な ど飛鳥宮跡の格式高い建物でも確認されています。 ③石敷SX7917 掘立柱建物SB7910の北で検出し た南北方向の石敷で、南は石敷 SX7916に、北は 石組溝 SD7911に取り付きます (写真2)。第73次 調査の成果と合わせると、幅2.94m、長さ10.3m となり、直径約30cmの石がもちいられています。 石敷は北で西に1°振れており、 正方位となる SB7910の方位とはやや異なります。この石敷は天 皇の生活空間である内郭北区間と SB7910とをつ なぐ通路と考えられます。

④石組溝SD7911 掘立柱建物SB7910の北で検出 した東西方向の石組溝で内幅約50cm、深さ約20cm で、底石に直径約15cmの石、側石には直径約20cm の石がもちいられています。

⑤砂利敷SH7912 掘立柱建物SB7910の周囲で検 出した砂利敷で、直径約10cmの石がもちいられ ています。内郭南区画全域で確認されており、全 域を石敷とする内郭北区画とは様相が異なります。

まとめ

今回の調査で確認した掘立柱建物 SB7910やそ の他の遺構については、遺構の方位や既往の調査 で確認された遺構との重複関係から、いずれも飛 鳥宮跡Ⅲ期遺構に属すると考えられます。

SB7910は、桁行7間(約20.0m)×梁行4間(約 11.2m)の四面廂建物となることが確定しました。 また、SB7910の周囲に設置された石敷が側柱の柱 通りまで設置されており、外側よりも内側の石敷 きを一段高くするなど、格式高い装飾が施されて いることがわかりました。さらに、解体時の足場 穴の可能性がある柱穴も確認できました。

内郭南区画は、天皇が儀式や政治をおこなった 公的な空間と考えられており、その中心建物であ る正殿 SB7910の規模と構造が今回の調査で確定 できたことは、極めて重要な成果といえ ます。



